

2022年度 事業・活動報告

1. 古着類の回収とP&Jカンパニー（以下PJC）への送り出し

1) 2022年度計画 130 トン：実績 98.7 トン（計画対比 75.9% 前年度対比 82.4%）

	回収期間	回収量	参加人数
1 回目	2022 年 10 月～12 月	30,793.3 kg	4,579 人
2 回目	2023 年 1 月～ 5 月	30,608.9 kg	4,407 人
3 回目	2023 年 6 月～ 9 月	37,260.8 kg	5,010 人
	合計	98,663.0 kg	13,996 人

2022 年度の回収は計画を 130 トンとしました。回収受付期間は年に 3 回設けました。参加人数は延べ 13,996 人で、前年より延べ 2,803 人減りました。定期的なイベント回収や、以前に回収に参加した方にお知らせを郵送するなどの呼びかけも行ないましたが、回収量は 98.7 トンとなり計画を 31.3 トン下回りました。

回収協力団体の皆様には積極的に広報や拠点での回収、配達便での回収などにもご協力いただき、回収量の 76.8%は協力団体の所属メンバーの方からの回収でした。

会員・支援メンバーの受付期間はほぼ通年としました。会員・支援メンバーの方からの回収は年間で 11.3 トンとなり、回収量の 11.5%（延べ 1382 人）でした。ご協力ありがとうございました。

笠間市による回収協力は、回収した品物の仕分けを担っていただいていた社会福祉協議会の方々の活動の継続が難しく終了されました。長い間のご協力ありがとうございました。

* 協力団体の方々からの回収は「6. 多様な団体との連携」及び資料「2020 年度団体別回収集計」をご覧ください

* その他の回収協力は「6. 多様な団体との連携」の 7) 企業や団体、学校との協力関係をご覧ください

① 地域のコミュニティスペースやイベントなどでの回収企画実施

地域のコミュニティスペース・・・幕張ベイタウンコミュニティスペース「絆」（4 回）、ベイタウンに隣接したペイパーク（1 回、2022 年度から開始）で実施しました。

イベント回収・・・ベイタウンまつり（2 回）、「ぽっぽの市」（2 回）、ユニモちはら台（1 回）で実施しました。

※回収企画の広報は、地域コミュニティ紙への掲載に効果があり新規の参加者が増えました。

② チラシやホームページ、SNS による情報発信

チラシ・・・会員・支援メンバーに 2 部郵送（1 回）し、紹介をお願いしました。J F S A 古着ショップ店頭、イベント回収、活動説明会などで手渡ししました。

ホームページ、SNS・・・イベント回収企画をカレンダー、フェイスブック（ホームページ上）で発信しました。フェイスブックの更新回数を増やしました。

※持ち込みに来た方たちに回収量が不足していることを伝えたところ、皆さんから「こんなにたくさんあるのに不足しているとは知りませんでした」というお答えをいただき、情報発信が不十分だったことがわかりました。

③ 回収品目の拡大の可能性の検討

PJC とともにタイの需要を販売状況の確認をしながら検討を重ね、年度中は調査を続けることにしました。会報を読んだ方や活動報告会に参加した方たちからは、タイで女性ものの需要が高いという情報を知りスカートの回収を期待する声がありました。

④ 新しい回収協力団体との連携はできませんでした。

2) P J Cへの古着送り出し

2022 年度 J F S A 古着送り出し

	J F S A コンテナ積み込み	タイ倉庫着	送り出し量
第 80 回	2023 年 2 月 9 日	2023 年 3 月 7 日	25,255 kg
第 81 回	2023 年 4 月 6 日	2023 年 5 月 3 日	25,605 kg
第 82 回	2023 年 8 月 10 日	2023 年 9 月 11 日	24,947 kg
合計			75,807 kg

2022 年度グリーンコープ・ファイバーリサイクル事業部古着送り出し

	グリーンコープコンテナ積み込み	タイ倉庫着	送り出し量
第 30 回	2023 年 3 月 24 日	2023 年 4 月 25 日	25,530kg
第 31 回	2023 年 7 月 28 日	2023 年 8 月 25 日	23,681kg
合計			49,211kg

J F S Aからは3本、グリーンコープ・ファイバーリサイクル事業部(以下G C)からは2本のコンテナを輸出しました。

これまでの輸出先のパキスタンでは 2022 年 10 月以降、古着輸入に掛かる関税が大幅に引き上げられ、販売収益から経費を差し引くと利益が見込めない状況となりました。そのため、P J Cカユーム氏と協議し、パキスタン以外の古着輸出先として、2022 年 9 月に調査を行なったタイに送ることを決めました。タイへのコンテナ輸出にあたっては、カユーム氏の知人のパキスタン人でタイの古着卸会社W A S 代表ワジッド・アリ・シャー氏の協力を得て、P J C、W A S、J F S Aの3者ですめることを確認しました。

2023 年 2 月に初となるタイへのコンテナ送り出し（第 80 回）を行ないました。タイでの販売は、輸入手続きから倉庫での荷受、卸売り、マーケット調査等にあたり、W A S のワジッド・アリ・シャー氏の全面的な協力を受け実行されました。J F S A の第 80 回・第 81 回、G C の第 30 回コンテナは、古着マーケットのあるカンボジアとの国境の街アランヤプラテートにあるW A S の倉庫で荷受けをしました。そこでは買付業者に向けてアイテムのバールごとに卸売りを行ないました。バッグや靴、ジーンズ、男女夏物衣料は需要が高く、販売が好調でした。一方で冬物衣料や毛布、下着、タオル等はパキスタンでは需要がありましたが、タイの気候風土では需要が低く、他のマーケットや周辺諸国を含めて販売の可能性を探ることになりました。

J F S A 第 82 回、G C 第 31 回コンテナについては、アランヤプラテートではアイテムの需要が限られることと、卸売り価格が低いため、タイ北部の都市チェンマイに拠点を移して、卸売りを行いました。アランヤプラテートと比べると冬物衣料の需要があり、今後もチェンマイを卸売り拠点として、事業基盤を作ることを確認しました。

コンテナの販売にあたり、基本的にP J C、W A S、J F S Aの3者は対等な事業パートナーとしての役割を担い、経費は3者で分担することを確認しました。売上についてはコンテナ輸入に掛かった日本側(海上運賃等)、タイ側(関税等)の経費を差し引いた利益を、3者で分配することを確認しました。これまでパキスタンでの販売は単独の古着卸業者にコンテナ1本分を卸売りしていましたが、タイではこれまでのところ、倉庫に保管したバールを複数の買付業者に随時卸売りしています。そのため、タイでのP J Cの古着販売事業の収支報告は、初回コンテナの到着（2023 年 3 月）から1年間を一括りとしてまとめることを確認しました。

2. P J Cとの連帯事業活動の推進とアル・カイルアカデミーの自立支援

1) 古着販売事業

買い付けから輸入後の商品管理と、仕分け、値付けなどの準備を全て柏店で行ない、販売状況を共有するためにクラウド上で集計し、担当同士が密に連絡を取り合いながら各店舗で販売する仕組みを作りました。P J Cでは従来の物産品に加えて、パキスタンで小規模に流通するアメリカやヨーロッパの古着への取り組みを始めました。

2) kar-khana 事業（製品販売・リメイク事業）

販路の拡大と営業機会を増やすために、新しく千葉センターにも担当者を配置しましたが、年間を通して縫製工房を稼働させる分の受注と新商品の開発とオーダーは出来ませんでした。オーダー数が少なかったため、縫製技術や生産体制の検証、精査、強化を行えませんでした。オリジナル商品の販売数が少なく、受注もない状況で、縫製工房の運営費がP J Cの経営をひっ迫させました。こうした状況を踏まえて、P J Cと今後の事業について協議をしました。協議の結果、工房を構えて事業を継続することは困難という判断になりました。

3. 国内事業の推進

1) センター業務

①千葉センター

新たな輸出先のタイでの需要をセンター業務にフィードバックし、選別基準や種類分け、梱包方法の変更に取り組みました。

店舗の販売状況や売れ筋を共有し、選別から品出しへと迅速につなげるようにしました。

選別待ち在庫が滞留する状況は一定程度改善されましたが、より安定的に作業をすすめ、倉庫内スペースを有効活用するための体制が必要です。

労働環境の改善として、夏期の暑さ対策(スポットクーラー、扇風機の増設等)を行ないました。

選別協力団体が定期的に作業に参加しました。軒先市への出店や野菜の店頭販売を通し、団体の目的や活動への理解と連携が深まりました。コンテナ積み込みへの協力がありました。

②東葛センター

海外から到着した古着と国内回収した古着はカゴ車を使って管理することで、動線・作業スペースの確保を維持しました。国内古着は選別前と選別後、輸入古着は未洗濯と洗濯済みとをカテゴリごとに分けをして管理しました。店出しと計量までの作業を流動的に行なえる環境作りに努めました。

2) ショップ販売

①千葉店（古着ショップ CHARKHA BAZAAR チャルカバザール）

売上目標に対して 106%、前年比 113%となり、目標を達成することができました。来客数は全体としては前年比 90%と減少しましたが、30代、40代は前年比 110%と増加しました。週末には家族連れや三世代での来店が多くありました。子ども服の売上は前年度末に売場のリニューアルを行なって以降、順調に伸び、前年比 121%となりました。

輸入古着については、2023年9月半ばから、東葛センターで商品準備・管理したものを千葉店で販売する仕組みを新たに始めました。

広告宣伝については、Instagram、公式ライン、郵便ハガキ、チラシを年齢層に応じて使い分けました。公式ラインで期間限定クーポンを毎月配信し、集客と新規登録の獲得、再来店に繋がりました。

古着回収については店内掲示を行ない、関心のある方には回収案内を渡しました。

②柏店（古着ショップ kapre カプレ）

予算を達成することができませんでした。全体としては予算達成率 97%、前年比 98%となり、特に事業者に対する卸売りが年間で前年比 87%(上半期 116%、下半期 57%)となったことが大きく影響しました。一方で一般客に対する売上は年間で前年比 108%となっており、新たに始めた SNS での宣伝や、滞在時間を伸ばしてもらうための内装変更の効果を感ずることができました。

また、取引先との交流やメディアを通じた情報収集により現状の把握に努め、労働環境における問題点や課題の抽出に取り組みました。その中でも計画や目標を達成するために必要な人員を確保することが重要な課題と判断し、研修や会議を行い解決に取り組みました。職責に応じた給与手当の設定や、社会保険労務士との顧問契約の提案など、働く人たちの役割を明確にしながら分担し、労働環境の改善に努めました。

3) 街商販売（フリーマーケット、その他）

主に千葉銀座通りと赤羽公園のフリーマーケットに出店しました。千葉や東京では、コロナ禍以前のような大型のフリーマーケットやイベントも含め再開されましたが、J F S A の人員体制の面、商品の在庫の面等を鑑みて出店を検討し、実行しました。

4) 販売協力団体による販売（委託販売）

アースマーケット(千葉市)では常設販売を行ない、古着を購入する常連客が増えています。店舗で古着の回収量は 148.5 kg ありました。

おおなみなみ(千葉市)は 2023 年 4 月までで常設販売を終了し、4 月、7 月に、回収と販売を合わせた企画を行ないました。回収量は 200 kg ありました。

あみあみ(千葉市)は毎月、軒先市にて毛糸の委託販売を行ないました。

中川クロス(市川市)での委託販売は、売上目標の達成が難しく、回収等の取り組みもできないことから、2023 年 7 月で終了としました。

5) 市民活動と連動した企画

① 協力団体主催の企画 2 月に大地を守る会東京集会オーガニックフェスタ 2023 に出店しました。生活クラブ虹の街のデポー各店舗へ継続して出店しました。

② 実行委員会参加企画

・ぽっぽの市：11 月は稲岸公園、4 月は雨天により高浜ショッピングセンターで縮小開催しました。J F S A の活動紹介、古着の販売と回収を行ないました。

・新松戸中央公園チャリティーフリーマーケット：実行委員会に参加しました。JFSA は他の企画と重なり当日参加できませんでした。

③ J F S A 主催バザール企画：千葉センターは開催会場の公園の工事が未だ終了しないため開催できませんでした。東葛センターはコロナ禍で開催できませんでしたが、5 月に 3 年半ぶりに開催をすることができました。

④ リサイクル着物販売企画：和衣マルシェちば@まる空間は with Tomo's Café を毎月開催しました。特に 7 月以降はこれまでの常連のお客さんに加え、SNS 経由で遠方からご来店されるお客さんも増え、売り上げ増に繋がりました。また 7 月からは、売り上げの 10%を着物選別ボランティアの「和(なごみ)」への協力金とすることを決め実行しました。着物のリユースを通して、代々受け継がれた物を懐かしみながら長く大切に着るといふ、大量消費とは異なる価値を見出し、また着物を洋服と合わせて着たり、解いてリメイクするなど、新たな価値を生む可能性を孕んでいると感じます。8 月に

上野公園で3日間開催された「パキスタン・ジャパンフレンドシップフェスティバル」に出店しました。

4. 広報活動と会員の参加

1) 会員の増減

会員、支援メンバーは前年度より合計38人減りました。新規入会者は122名（前年度199名）でした。会報発行や回収のお知らせを送付するときに継続願い、入会願いを送り、継続率は88.9%（昨年度87.1%）でした。継続率は上がりましたが、回収参加者が前年度の約8割に減ったこともあり新規入会者数は前年度の61.3%でした。

会員以外で回収に参加した方には、回収の案内、古着のゆくえについてのお知らせといっしょに入会の呼びかけを郵送しました（のべ約11,200人）。

	会員数(うち新規入会数)	前年比	口数	前年比	計画口数
会員(個人)	181名(14名)	+9名	196口	+9	180口
支援メンバー(個人)	1,220名(108名)	-47名	1,384口	-91	1,450口
会員(団体)	11団体(0)	±0	11口	±0	11口
支援メンバー(団体)	8団体(1)	±0	8口	±0	8口

2) 広報活動

会報を年3回発行しました。これまで会報の編集は事務局が行なっていましたが、見やすい紙面づくりと作成にかかる時間を短縮するために外部委託しました。回収期間中にセンターに持ち込みに来た方たちに会報を手渡して、情報を伝えるよう心掛けました。イベント回収や、活動説明の機会でも活用しました。

回収案内を回収期間が始まる約1か月前に発送しました。回収案内や会報の郵送の費用に送っていただいた切手とハガキ（切手に交換）を使用しました。

支援メンバーの方からのご提案で、ご自分の同期会への呼びかけと、お近くのマンションの自治会に回収案内のチラシを置く協力をさせていただきました。

金沢泉丘高校、水戸第2高校の生徒による探求事業の課題取り組みに協力しました。

淑徳大学、日本女子大での講義に招かれ、活動報告を行ないました。

事務局のパキスタン派遣中に、カラチに赴任されている日本人の方々が開催されたJ F S A活動報告会に出席しました。

3) サポーターグッズ

2022年度のサポーターグッズは、パキスタンの伝統技術アジュラク染めの模様をプリントした生地を使ったコースターを縫製工房で作ってもらい、会報62号とともに会員、支援メンバーに送りました。

4) ボランティアの参加

コンテナ送り出しの積み込みに協力いただきました。会報や回収案内の発送作業に協力をいただきました。和服の専門知識のある方たちのグループ「なごみ」に整理や販売に協力いただきました。

ファイバーリサイクルうらやすのメンバーが、定期的に一次選別に協力していただきました。幕張インターナショナルスクール6年生、千城台高校剣道部の生徒とPTA役員の方が、一次選別に参加していただきました。

5) 活動報告会・交流会など

団体会員、団体支援メンバーなどの協力を得ながら、回収、仕分け体験、オンラインも利用した報

告会などを行ないました。

2022 年 11 月の定期総会のあとに、「J F S A の始まりを振り返りこれからを考える～設立メンバー西村光夫氏を偲びつつ」と題して交流会を持ち、思い出とともに活動を振り返り、今後の在り方を会員、協力者の皆さんといっしょに改めて考える機会としました。

【2022 年】

- 10 月 都小学校 2 年生まち探検受入れ パルシステム茨城 栃木 下妻館衣類回収
淑徳大学オンライン授業講師
- 11 月 グリーンコープ地域運動オンライン交流集会 ファイバーリサイクルうらやす定期総会
生活クラブ茨城オンライン交流会 APF 総会（オンライン参加）
損保ジャパン千葉県回収品贈呈式
- 12 月 うらやすまちフェス出展 生活クラブ茨城水戸センター・取手センター仕分けと交流会
グリーンコープゆうあいショップスタッフ来訪

【2023 年】

- 2 月 幕張インターナショナルスクール 6 年生来訪 大地を守る会オーガニックフェスタ出展
生活クラブ茨城牛久センター仕分けと交流会
- 3 月 パルシステム茨城 栃木 エンジョイパル日立館衣類回収
生活クラブ茨城水戸センター仕分けと交流会 生活クラブ埼玉オンライン学習会
生活クラブ茨城取手センター仕分けと交流会
- 4 月 ファイバーリサイクル四街道定期総会 千城台高校剣道部来訪（見学とボランティア体験）
- 5 月 生活クラブ虹の街デポーまつり@おおたかの森 常総生協報告会
- 6 月 NPO クラブ定期総会 アーシアン定期総会 常総生協総代会 生活クラブ虹の街総代会
日本女子大講師 千城台高校活動報告会
- 7 月 パルシステム茨城 栃木みとセンター衣類回収 生活クラブ茨城水戸センター仕分けと交流会
生活クラブ茨城取手センター展示会 生活クラブ茨城取手センター仕分けと交流会・協議会
パルシステム茨城 栃木夏休み体験企画で来訪 千葉日産回収品贈呈式
生活クラブ虹の街佐倉センターオンライン交流会
生活クラブ茨城水戸センター・取手センター仕分けと交流会
グリーンコープワーカーズ連合会メンバー見学来訪
- 9 月 水戸第二高校オンライン説明会 生活クラブ茨城 40 周年の集い（オンライン参加）

5. 研修

2023 年 7 月に行なった臨時総会の後に、「パキスタン洪水被災の復興支援活動」をテーマに報告会 & 学習会を行ないました。学習会のゲストスピーカーには庄 ゆた夏さん（ニューヨーク州セラキューズ大学建築学院准教授）をお招きしました。庄さんは、ルワンダの農村地域で住宅や病院建設支援に取り組む NGO と協力して実践を続けている方で、J F S A がアル・カイルアカデミーと協力して取り組んだ洪水被災支援活動の内容を深める機会としました。

6. 多様な団体との連携

1) 地球市民交流基金アーシアン

縫製工房に、生活クラブ虹の街の共同購入企画品ストール（大小 2 種類）のためのオーダーをいただき納品しました。洪水被災支援復興カンパに協力いただきました。

2) NPO クラブ

理事として参加しました。おおなみなみで古着の委託販売と回収を行ないました。

千葉市地域づくり大学校企画に参加しました。

3) ファイバーリサイクル四街道、ファイバーリサイクルうらやす、ファイバーリサイクル佐倉

・ファイバーリサイクル四街道・・・活動収益金の一部を寄付していただきました。A K B G縫製工房への寄付をいただきました。コンテナ積み込みボランティアに参加していただきました。洪水被災復興支援カンパに協力いただきました。

・ファイバーリサイクルうらやす・・・活動収益金の一部を寄付していただきました。アル・カイヤルアカデミーのコンピュータークラスへの寄付をいただきました。千葉センターの一次選別ボランティアに定期的に来ていただきました。着物販売企画を実施していただきました。洪水被災復興支援カンパに協力いただきました。

・ファイバーリサイクル佐倉・・・活動収益金の一部を寄付していただきました。A K B G縫製工房への寄付をいただきました。洪水被災復興支援カンパに協力いただきました。

4) 団体会員、団体支援メンバー

回収協力団体では回収の広報を定期的にしていただき、メンバーの方たちの回収参加、イベントなどの出展に協力していただきました。また、コンテナ輸出先をタイに変更した経緯と目的についてオンラインでの報告の機会をいただきました。

① 大地を守る会（回収協力団体）・・・コンテナ送り出し積み込みボランティアに参加していただきました。イベントに出展させていただきました。回収お知らせチラシの会員の方への配布、広報紙での紹介、WEBでの広報に協力していただきました。職員の方にパキスタンを訪問していただきました。洪水被災復興支援カンパに協力いただきました。

② パルシステム千葉（回収協力団体）・・・広報紙での紹介、イベント出店と回収、回収お知らせチラシの組合員の方への配布に協力していただきました。2022年11月のぽっぽの市に出店していただきました。

③ 生活クラブ・東京（回収協力団体）・・・広報紙に記事を掲載して回収のお知らせと活動を紹介していただきました。2023年10月に洪水被災復興支援カンパに協力いただくことが決まりました。

④ 生活クラブ虹の街（回収協力団体）・・・オンライン交流企画開催、配達便による回収（年3回）、デポー（生活クラブの店舗）での回収（年6回）と販売、回収お知らせチラシの組合員の方への配布に協力していただきました。2022年11月のぽっぽの市に出店していただきました。洪水被災復興支援カンパに協力いただきました。

⑤ ポラン広場（回収協力団体）・・・回収に協力していただきました。洪水被災復興支援カンパに協力いただきました。

⑥ 社会福祉法人風の村・・・「虹と風のファーム」が千葉センター軒先市に出店していただきました。千葉ショップで野菜受託販売を行ないました。洪水被災復興支援カンパに協力いただきました。

⑦ 生活クラブ茨城（回収協力団体）・・・配達便による回収とその後の仕分け&交流会の開催に協力していただきました。回収活動を担うブロックの活動協議会に参加しました。イベントに出展していただきました。縫製工房に、40周年記念品のオーダーをご相談いただきサンプルを届けました。洪水被災復興支援カンパに協力いただきました。

⑧ グリーンコープ・・・スタッフの方たちがタイの古着市場調査に同行されました。縫製工房に、共同購入企画品ストール（3色）のオーダーをいただき納品しました。洪水被災復興支援カンパに協力していただきました。

⑨ パルシステム茨城 栃木（回収協力団体）・・・配達便による回収とその後の仕分け&交流会の開催に協力していただきました。回収活動を担うブロックの活動協議会に参加しました。イベントに出展していただきました。縫製工房に、40周年記念品のオーダーをご相談いただきサンプルを届けま

した。洪水被災復興支援カンパに協力いただきました。

⑩ 生活クラブ埼玉（回収協力団体）・・・回収の広報に協力していただきました。2023 年 10 月に洪水被災復興支援カンパに協力いただくことが決まりました。

⑪ 常総生協（回収協力団体）・・・配達便による回収を行なっていただきました。活動報告の機会をいただきました。洪水被災復興支援カンパに協力いただきました。

5) 他のNPO/NGOとの交流

企業組合あうんが毎月の J F S A 軒先市に参加しました。また企業組合あうんが主催する「あらかわ再発見」に出店参加しました。

6) 企業や団体、学校との協力関係

・千葉センター軒先市と東葛センターカプレバザール開催時に、周辺事業者から駐車場を借用しました。

- ・幕張インターナショナルスクール 6 年生による回収と選別体験会が実施されました。
- ・都小学校の「まち探検」の授業に協力しました。
- ・ユニモちはら台にて回収を行なう「スマイル・リユース」企画に参加しました。
- ・エー・シー・エス債権管理回収(株)が、社員を対象にした衣類などの回収を行ないました。
- ・損保ジャパン千葉県に社員の方を対象にした衣類などの回収に協力いただきました。
- ・千葉日産自動車に社員と対象とした回収の取り組みを始めました(上記の損保ジャパンからの紹介)
- ・(株)千葉ステーションビルペリエに沿線 3 駅での回収企画を実施していただきました (2 回)
- ・環境街づくり NPO エコメッセに回収に協力いただきました。
- ・日本女子大の学生がコンテナ積みボランティアに参加しました。
- ・千葉県立千城台高校に回収の取り組みを始めていただきました (今年度は文化祭で実施)
- ・ちばし地域づくり大学校の受講生の体験授業に協力しました。
- ・愛和病院が利用者の方に呼びかけて回収に協力いただきました。

7) A P F (互惠のためのアジア民衆基金)との連携、A K B Gによる新規事業への協力

A P F 理事会に出席しました。またインドネシア・スラバヤで開催された A P F 総会にムザヒル氏とともにオンラインで参加しました。会議の場で、J F S A やアル・カイルアカデミーの近況を報告しました。A P F メンバーのハンサリム連合は、継続して古着回収を実施、引き続き韓国内で販売し、売上をアル・カイルアカデミーの運営支援金、ハンサリム連合の交流費に充てました。

8) 社会福祉法人グリーンコープ・ファイバーリサイクル事業部との連携

日常的に連絡を取り P J C への輸出に関わる情報を伝え、輸出手続きに協力しました。

7. アル・カイルアカデミーの教育・連帯事業に関わるパキスタンの人々との交流

事務局の田邊航太郎、依知川をパキスタンへ派遣しました。また依知川の派遣には、豊島理事、そして協力団体のオイシックス・ラ・大地の職員の方が 1 名同行し、学校や古着マーケット、洪水被災地等の訪問を行ないました。招日企画を検討しました。

8. 危機管理の充実

1) 国内事業

各センターにて危機管理の充実に努めました。

2) 海外事業

海外派遣はリスクマネジメントマニュアルに沿って実行しました。

9. 働き方の改善への取り組み

社会保険労務士の方と顧問契約を結び、適切な労務管理を行なうとともに、就業規則の改訂に着手しました。

洪水被災復興支援活動

【 取り組みの経緯 】

2022年8月に起きたパキスタン大洪水の直後にアル・カイルアカデミーは被災地に行きました。被災した人々から状況をきき、生徒たちも参加して食料支援や医療支援を行ないました。J F S Aは2022年11月に理事長と理事1名を被災地に派遣し、現地の状況を知るとともに村人たちや支援に参加した学校の生徒、スタッフたちに話を聞きました。

その後もアル・カイルアカデミーは国内外の寄付者から資金を得て支援を続けました。そして、支援が届いていなかったブンド村の人々に出会って話し合った結果、村にとどまってこれまで同様に農業を続けていきたいという村人たちの希望を受けて、家屋再建支援に取り組むことを決めました。J F S Aは2010年の洪水被災復興支援カンパ金の残金約300万円を届け、2023年5月までに20軒、アメリカのNGOからの支援で10軒、合計で30軒の家屋が建設されました。

家屋の再建が必要な世帯は125軒ありました。アル・カイルアカデミーからの協力要請を受けて、2023年4月の理事会でJ F S Aとしてカンパ活動に取り組むことを決めました。

【 カンパ活動 】

5月に会報とともにニュースを発行し、6月に案内のニュースを発行しました。会員、支援メンバー、協力団体、活動に協力してくださっている個人や団体の方々に会報とニュースを送り協力を呼びかけました。ホームページにカンパ協力の呼びかけを載せました。回収イベントなどで写真を展示し協力を呼びかけました。カンパ活動の期間は6月～8月とし、受け入れは2023年12月までとしました。

◎カンパ金の合計（2023年9月末現在） 331万2705円

内訳 個人：288万1605円（567人） 団体：43万1100円（8団体）